

Ⅱ. 結果のポイント：独身者票

1. 属性（独身者）

アンケートの有効回答総数は 673（総回収数は 687）であった。回答者の属性について、2000 年度の国勢調査の結果と比較しながら整理しておく。

独身者票の対象者は男女 20～49 歳の未婚者であるので、これを男女別・年齢 5 歳階級別に示したものが表 1-1 である。回答者の性別を比較すると男子が 46.1%，女子が 53.9% と女子の回答者数の方が多かった。2000 年の国勢調査の結果では、多治見市の 20～49 歳未婚（離死別含む）男女の総数は 15,519 人，そのうち男性が 53.6%，女性が 46.4% を占めていることから、今回のアンケートでは相対的に男性の回答が少なかったことがみてとれる。

年齢別に回答者の割合（男女合計）をみると、20 歳代が 61.8%，30 歳代が 25.4%，40 歳代が 12.8% であった。男

女ともに 20～24 歳の回答者が最も多く、全体の 35.2% を占めている。国勢調査との比較を見ると、女子では 25～29 歳及び 30～34 歳の回答者が相対的に多かった（25～29 歳ではアンケート 16.5%，国勢調査 13.8%，また 30～34 歳ではアンケート 8.3%，国勢調査 6.0%）。

性別年齢別に回答者の属性を詳細にみると、やや国勢調査との差異もみられるものの、極端なバイアスはないと考えられる。

次に、回答者の労働力状態を整理する。表 1-2 は、男女 5 歳階級別にみた就業者とその他（非労働力・失業）の状態にある者の割合を計算したものである。アンケートの回答者をみると、男子全体では就業者比率が 78.9% であり、女子全体では 75.9% であった。国勢調査では、多治見市に関して未婚者のみの労働力率が公表されていないため、配偶関係によらない就業者比率等を計算してある。これによると男子

表1-1 回答者の属性と国勢調査との比較①(年齢と性の分布)

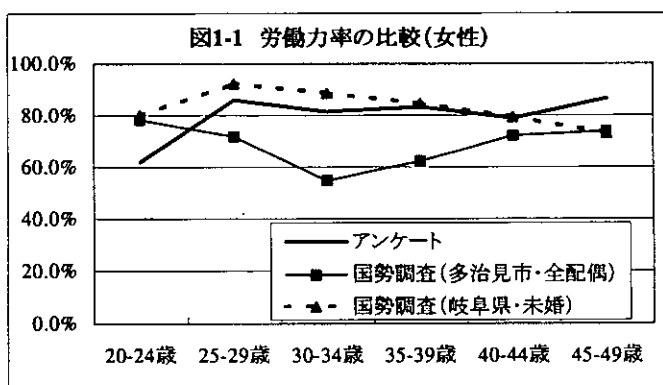
| 男子 | アンケート | 国勢調査 |
|--------|--------|--------|
| 20-24歳 | 15.5% | 18.5% |
| 25-29歳 | 10.1% | 15.7% |
| 30-34歳 | 8.3% | 8.2% |
| 35-39歳 | 4.9% | 4.7% |
| 40-44歳 | 3.3% | 3.2% |
| 45-49歳 | 4.0% | 3.2% |
| 小計 | 46.1% | 53.6% |
| 女子 | アンケート | 国勢調査 |
| 20-24歳 | 19.8% | 19.2% |
| 25-29歳 | 16.5% | 13.8% |
| 30-34歳 | 8.3% | 6.0% |
| 35-39歳 | 3.9% | 3.1% |
| 40-44歳 | 3.1% | 2.1% |
| 45-49歳 | 2.4% | 2.2% |
| 小計 | 53.9% | 46.4% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% |

注：アンケート回答者は年齢と性の双方の回答を行った者である。

表1-2 国勢調査との比較②(労働力状態)

| | アンケート | | 国勢調査 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 就業者 | 無職・家事 | 就業者 | その他 |
| 男子 | | | | |
| 20-24歳 | 50.0% | 50.0% | 70.9% | 29.1% |
| 25-29歳 | 93.8% | 6.2% | 91.0% | 9.0% |
| 30-34歳 | 92.6% | 7.4% | 94.0% | 6.0% |
| 35-39歳 | 90.6% | 9.4% | 96.4% | 3.6% |
| 40-44歳 | 90.5% | 9.5% | 96.7% | 3.3% |
| 45-49歳 | 92.0% | 8.0% | 96.2% | 3.8% |
| 小計 | 78.9% | 21.1% | 91.3% | 8.7% |
| 女子 | | | | |
| 20-24歳 | 61.9% | 38.1% | 72.9% | 27.1% |
| 25-29歳 | 86.0% | 14.0% | 68.0% | 32.0% |
| 30-34歳 | 81.5% | 18.5% | 52.0% | 48.0% |
| 35-39歳 | 83.3% | 16.7% | 60.6% | 39.4% |
| 40-44歳 | 78.9% | 21.1% | 70.5% | 29.5% |
| 45-49歳 | 86.7% | 13.3% | 72.8% | 27.2% |
| 小計 | 75.9% | 24.1% | 66.2% | 33.8% |
| 合計 | 77.3% | 22.7% | 78.3% | 21.7% |

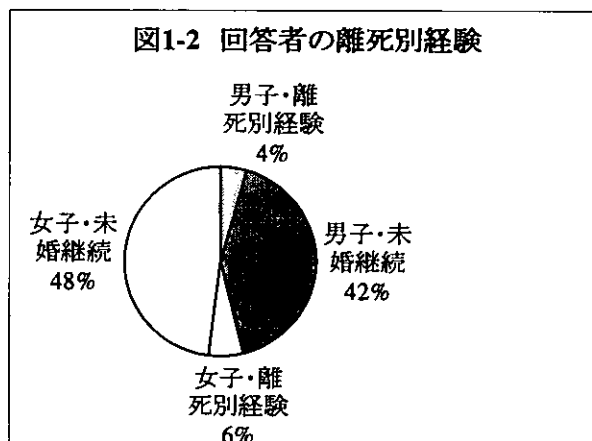
注：国勢調査の数値は未婚者に限らない20～49歳男・集計結果である。



全体の就業者比率は 91.3%，女子全体では 66.2%であった。

図 1-1 は女性の年齢 5 歳階級別労働力率を示したものである（但し、アンケート回答者は就業者比率）。アンケート回答者の就業者比率は多治見市における労働力率（対象は全配偶）を相当程度上回っており、失業者の存在を考慮すると、岐阜県全体の未婚女性の労働力率に近い状態にあることが推測される。

次に、回答者の結婚履歴を整理しておこう。図 1-2 は回答者のうち、離死別経験のある者の割合を示したものである。男女別にみると、男子の 4.3%，女子の 5.9%が離死別経験を持つと回答しており、回答者総数では離死別経験者は全体の 10.3%にのぼる。ちなみに、国勢調査における多治見市の離死別経験者の未婚継続者と離死別経験者の合計に対する割合（上記アンケートの離死別経験者割合に対応）は、男子が 4.9%，女子 11.2%であった。



学歴についてその特徴を整理しておく。図 1-3 は回答者の学歴を整理したものである。最も大きな割合を占めているのが中学・高校・専修学校卒の者で 47.6%にのぼる。次いで、大学卒以上の 37.8%，短大・高専卒の 14.7%であった。なお、男女別に大学卒以上の者の割合をみると、それぞれ 45.6%，31.1%であった。

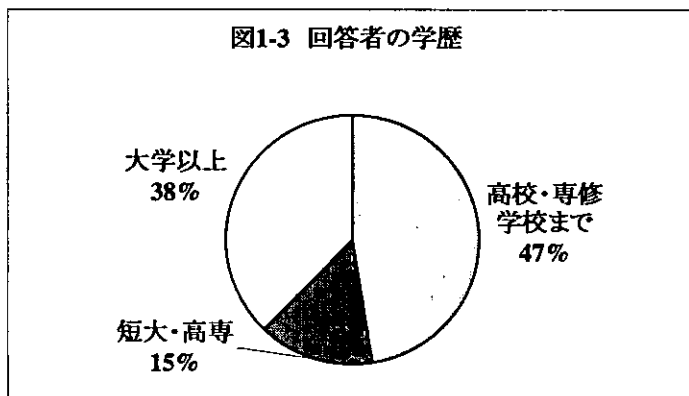
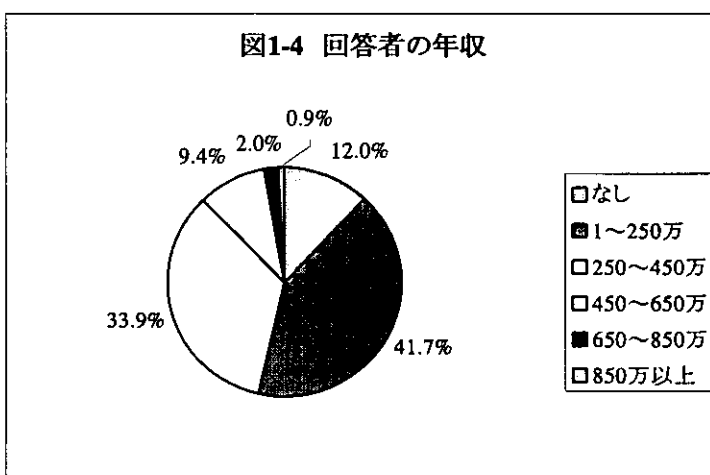


図 1-4 は回答者の年収の割合をみたものである。回答者のうち、最も多かった年収の層は 1～250 万円で全体の 41.7%を占めている。次いで、250～450 万円の者が 33.9%，無収入の者が 12.0%などとなっており、850 万円以上と回答した者はわずか 0.9%にすぎなかった。



2. 結婚、出産と女性の就業 —独身者の理想と予定のライフコース—

本章では、結婚・出産と女性の就業との関わりについて、独身の男女がどのような理想を抱いているのか、また理想とは別に現実にはどのようなライフコースを歩むと考えているのかについて明らかにする。分析の対象は20歳から39歳の未婚男女である。

2-1. 理想と予定のライフコース

本調査では、女性のライフコースを6つに分類し、独身の男女にそれぞれどのライフコースが理想か、また実際になりそうなライフコースはどれかについて回答を得ている¹⁾。各ライフコースの定義は以下である。

- ・就業継続 FT：結婚・出産で仕事を辞めず、フルタイムの仕事を生涯続ける
- ・就業継続 PT：結婚・出産で仕事を辞めず、パートタイムの仕事を生涯続ける
- ・再就職 FT：結婚あるいは出産を機に一旦退職し、適当な時期にフルタイムの仕事につく
- ・再就職 PT：結婚あるいは出産を機に一旦退職し、適当な時期にパートタイムの仕事につく
- ・専業主婦：結婚あるいは出産を機に退職し、その後は仕事につかない
- ・非婚就業：結婚・出産をせず、仕事を生涯続ける

表 2-1. 女性の理想と予定のライフコース

| | | 理想 | | 予定 |
|--------------------------------------|--------|-------|-------|-------|
| | | 男性 | 女性 | 女性 |
| ラ 女 イ 性 の コ ー ス | 就業継続FT | 16.7 | 29.6 | 14.5 |
| | 就業継続PT | 6.4 | 4.5 | 5.2 |
| | 再就職FT | 19.7 | 17.2 | 9.7 |
| | 再就職PT | 35.6 | 27.5 | 49.8 |
| | 専業主婦 | 15.9 | 16.8 | 6.6 |
| | 非婚就業 | 1.3 | 2.1 | 12.1 |
| | その他 | 4.3 | 2.4 | 2.1 |
| 合計 | | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| サンプル数 | | 233 | 291 | 289 |

表 2-1 は上記の定義に従い、回答結果をまとめた表である。これによると、最も多くの未婚女性が結婚や出産に関わらず、フルタイムで働き続けることを理想としている(29.6%)。一方で、未婚男性は女性が結婚や出産を機に退職し、適当な時期にパートタイムで働くことを理想とする者が最も多く(35.6%)、女性との意識のギャップが大きい。理想のライフコースと予定のライフコースを比較すると、フルタイムでの就業継続と専業主婦を予定する女性の割合が大きく減少している。また、パートでの再就職を予定している女性の割合が高くなり、男性が理想とするライフコースに近づく傾向にある。しかし、専業主婦を予

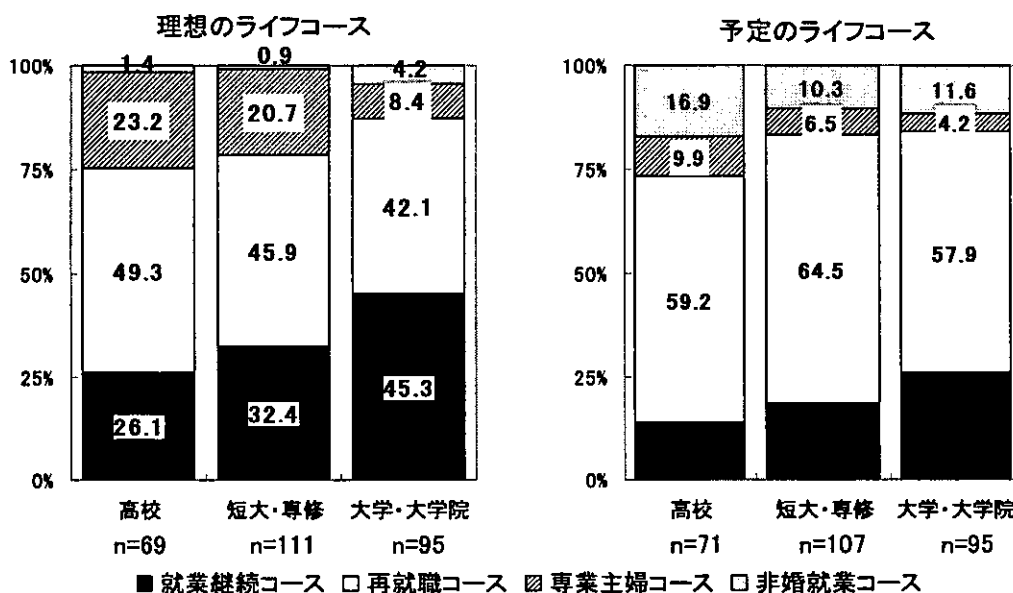
1) 男性については、配偶者となる女性に送って欲しい理想のライフコースを訊ねている。

定する未婚女性の割合は、男性が理想とする割合よりも低く、非婚就業を予定する女性も12.1%にまで増加している。

以上のように、女性の仕事と家族形成をめぐり、未婚男女の意識に大きな相違が生じているものと思われる。女性は結婚や出産を経てもフルタイムで就業する意向が強いのに対し、男性は配偶者にパートでの就業や専業主婦となることを望む傾向が強い。また、非婚就業を予定している女性が12.1%も存在しており、結婚や出産を躊躇する未婚女性が少なからず存在することが示された。非婚就業を理想のライフコースと考えている女性はほとんどいない(2.1%)ため、彼女たちがなぜ非婚就業を予定しているのか、またそのような意識が未婚化とどの程度結びついているのかについては、より詳細な分析が必要である。

2-2. 学歴別にみた理想と予定のライフコース

図 2-2. 未婚女性の学歴別、理想と予定のライフコース



高学歴化を背景に女性の社会進出が著しい。ここでは未婚女性のライフコース観が学歴によって異なるのかを考察する。図 2-2 をみると、理想のライフコースは学歴により異なる。一般に、学歴が高いほど結婚や出産に関らず就業を継続しようとする意向が強く、再就職や専業主婦を理想とする割合は減少する傾向にある。

しかし、予定の(実際になりそうな)ライフコースをみると、学歴による特徴を残しつつも、その差は縮小する傾向にある。再就職コースを予定している女性の割合は学歴に関わらず約 6 割を占めている。また、就業継続を予定している未婚女性の割合は高学歴となるほど高い傾向にあるが、学歴間の差異は縮小している。専業主婦を予定している女性の割合は学歴に関わらず減少しており、代わりに増加しているのが非婚就業の割合である。非婚就業を予定する者の割合は、高卒者において高い傾向がある。

未婚女性が非婚就業を予定するのはなぜであろうか。未婚化・少子化対策の鍵は、ここに隠されているようにも思われる。

3. 暮らしぶり

3-1. 暮らしぶりに関する質問

本調査では、15歳の頃の当時の平均的な家庭と比較した回答者の家庭の暮らしぶり（問6）、現在の世間一般と比べての暮らしぶり（問7）、そして15歳の頃と現在の暮らしぶりを比較したもの（問8）をそれぞれ9段階の間隔尺度で聞いている。

問6は回答者が15歳の時に育った、つまり自立する前に親から与えられた経済環境に関する質問である。問7は回答者が自分の経済的地位を他者や社会一般と比較して感じている現在の経済的状況を質している。問8は回答者自身もつ経済的価値観、つまり自分が育った15歳時と現在の生活を比較した相対的な経済的地位を聞いている。

これらの質問は、R. A. イースターリンの「相対所得」の概念に拠るものものである。われわれの経済的価値観は、親元にいたときに親の経済力によって与えられた経済的環境と、親から自立し自らが労働市場で経験した経済的環境の比較によって形成される。前者を「生活水準効果」、後者を「所得効果」と呼ぶ。「所得効果」が「生活水準効果」を上回るならば、自分が育った環境よりもよりよい生活ができると判断し、結婚や家族形成により積極的になると考えられる。逆に下回る場合には、経済的に恵まれているとは考えず結婚を躊躇したり、追加的な家族形成を思いとどまることになる。特に、男性にとって経済的安定は結婚の前提条件となるため、女性よりも大きな意味をもつことになる。

本調査では、問6が「生活水準効果」を、問7が「所得効果」、そして問8がそれらの比較を意味する「相対所得」を質していると仮定される。さらに、分析の段階ではイースターリンによる操作定義に沿って、「所得効果」を「生活水準効果」の数値で除した「相対所得」の代替となる数値（「イースターリンの相対所得」）も算出してみた。

これらのデータや変数は、単独で集計し考察するというよりも、他の変数と関連させ結婚や出産行動、あるいは自立に関する行動や意識、伝統的価値観や結婚観などの意識構造の分析に説明変数として投入することができるものである。

3-2. 独身者の暮らしぶりに関する回答

独身者の暮らしぶりに関する回答を、男女別ならびに年齢別に比較するとどうなるであろうか。表3-1は、男女それぞれ5歳ごとの回答を比較したものである。

15歳時の暮らしぶりに関して高い平均値を示したのが男女とも20歳代後半である。わが国のバブル経済が頂点を極め崩壊に転換はじめたのが1990年頃であり、この年齢グループの人たちが10歳から15歳ごろであった。そういう意味では、こうした歴史的背景と一致するような結果を示しているといえよう。その上の30-34歳と35-39歳が15歳であったのは、バブル経済以前の低迷期であったために20歳代と比較すると平均値が低いのかも知れない。

表3-1 男女別、年齢別の暮らしに関する質問への回答の分布

男性:

| | | 全年齢 | 20-24歳 | 25-29歳 | 30-34歳 | 35-39歳 | 40-44歳 | 45-50歳 | |
|------|-----------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 問6 | 15歳の頃の家庭の暮らし | 平均 | 5.38 | 5.66 | 5.67 | 5.46 | 4.89 | 4.44 | 4.33 |
| | | 標準偏差 | 1.59 | 1.59 | 1.35 | 1.62 | 1.64 | 1.46 | 1.50 |
| 問7 | 世間一般と比べた現在の暮らし(所得効果) | 平均 | 5.23 | 5.50 | 5.09 | 5.32 | 4.62 | 4.94 | 5.06 |
| | | 標準偏差 | 1.71 | 1.62 | 1.59 | 1.76 | 1.90 | 1.57 | 2.21 |
| 問8 | 15歳の頃と比べた現在の暮らし(相対所得) | 平均 | 5.43 | 5.52 | 5.38 | 5.69 | 4.73 | 5.50 | 5.28 |
| | | 標準偏差 | 1.85 | 1.78 | 1.91 | 1.72 | 1.97 | 1.97 | 2.16 |
| 問7/6 | イースタリンの相対所得 | 平均 | 1.05 | 1.04 | 0.97 | 1.11 | 1.00 | 1.23 | 1.21 |
| | | 標準偏差 | 0.59 | 0.50 | 0.58 | 0.82 | 0.26 | 0.68 | 0.58 |
| 回答者数 | | | 273人 | 102 | 64 | 47 | 26 | 16 | 18 |

女性:

| | | 全年齢 | 20-24歳 | 25-29歳 | 30-34歳 | 35-39歳 | 40-44歳 | 45-50歳 | |
|------|-----------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 問6 | 15歳の頃の家庭の暮らし | 平均 | 5.79 | 5.78 | 6.01 | 5.40 | 5.53 | 6.00 | 5.00 |
| | | 標準偏差 | 1.56 | 1.45 | 1.50 | 1.88 | 1.92 | 1.29 | 1.58 |
| 問7 | 世間一般と比べた現在の暮らし(所得効果) | 平均 | 5.53 | 5.56 | 5.62 | 5.40 | 5.40 | 5.00 | 5.80 |
| | | 標準偏差 | 1.63 | 1.49 | 1.70 | 1.84 | 1.40 | 2.16 | 1.30 |
| 問8 | 15歳の頃と比べた現在の暮らし(相対所得) | 平均 | 5.83 | 5.77 | 5.91 | 5.91 | 5.93 | 5.15 | 6.40 |
| | | 標準偏差 | 1.78 | 1.68 | 1.71 | 1.98 | 1.75 | 2.48 | 2.07 |
| 問7/6 | イースタリンの相対所得 | 平均 | 1.01 | 0.99 | 0.99 | 1.07 | 1.15 | 0.89 | 1.31 |
| | | 標準偏差 | 0.41 | 0.29 | 0.48 | 0.38 | 0.62 | 0.45 | 0.66 |
| 回答者数 | | | 312人 | 132 | 102 | 45 | 15 | 13 | 5 |

次に、問7の世間一般と比較した現在に経済環境については、男性では20歳代前半と30歳代前半がその前後の年齢グループと比較すると高くなっているのに対し、女性では20歳代後半と45歳から50歳の年齢で高くなっている。また15歳時と現在の暮らしを比較した問8に関しても、男性は30歳代後半が最も高く、次いで20歳代前半、女性は40歳代後半で高い。男女を比較するとここでも同様に、女性のほうが男性よりも15歳時と現在の経済的環境どちらにおいても高い値を示している。

問7と問6を比較した「イースタリンの相対所得」は、問8とは若干異なる年齢別の変化を示している。男性では25-29歳で、1を若干したまわっているが、他の年齢グループで1を超えており、15歳時よりも現在の暮らしのほうが高いと評価している。女性は、30歳代前半と後半、そして40歳代後半で1を上回っているが、その他の年齢では1を若干下回っている。問8は直接に二時点の比較を回答者に求めたのに対し、この数値は別々の質問についての回答を比較したためにその差があらわれたのであろうか。

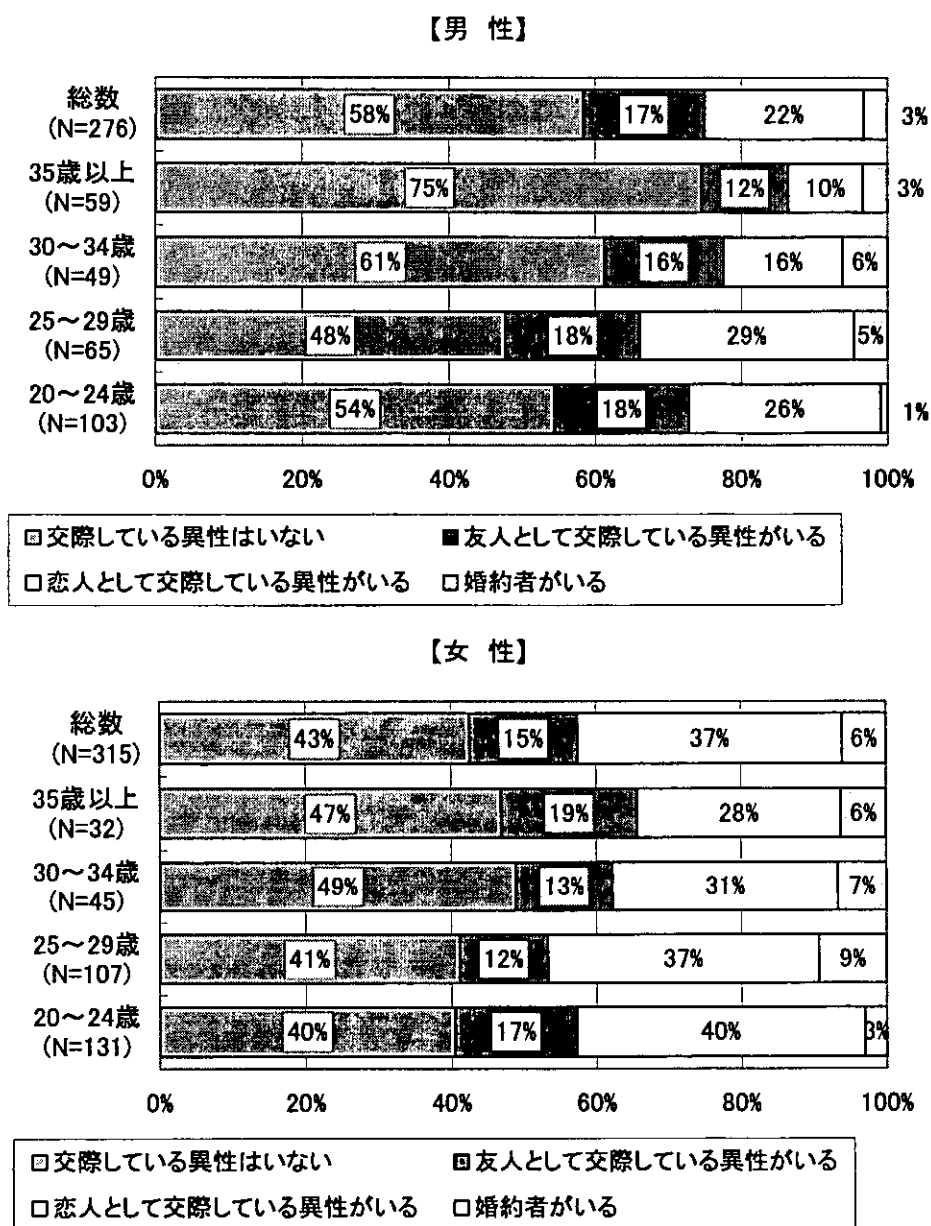
以上見てきたように、暮らしに関する質問については女性のほうが男性よりも楽観的な傾向が強い。全年齢におけるそれぞれの質問の平均もすべて男性を上回っている。男性のほうが女性よりも経済的な環境の変化に敏感なのか、あるいはより影響を受けやすい労働環境に置かれているのであろうか。

4.交際している異性の存在とパートナー探し

4-1. 異性との交際状況及び交際している異性との結婚希望(問 10)

異性との交際は、将来の結婚へ結びつく可能性のある重要な行動である。その状況を男女別でみると、「交際している異性はいない」と回答した者が最も多く、男性は58%、女性は43%を占めた。異性の交際相手がない割合は、特に35歳以上の男性において顕著な特徴である(75%)。また男女で差があるのは、「恋人として交際している異性がいる」と回答した者の割合であった(男性22%、女性37%)。

図4-1 男女別にみた、異性との交際状況



「交際している異性がいる」と答えた者に、交際相手との結婚の希望をたずねたところ、「結婚したいと思っている」と回答した者が 46.8%、「特に結婚は考えていない」と回答した者が 53.2%となった。これは、性別でみてもほとんどかわりはないが、年齢階級別では、25~29歳で「結婚したいと思っている」と回答した者の割合が 63.9%を占めた。(表 4-1)

表 4-1 男女・年齢別，交際相手との結婚意思

| | 総数 | 結婚したい と思っている | 特に結婚は 考えていな |
|--------|------------|-----------------|----------------|
| 男性 | 100(N=105) | 40.0 | 60.0 |
| 女性 | 100(N=160) | 51.3 | 48.8 |
| 20~24歳 | 100(N=119) | 47.1 | 52.9 |
| 25~29歳 | 100(N=83) | 60.2 | 39.8 |
| 30~34歳 | 100(N=36) | 36.1 | 63.9 |
| 35歳以上 | 100(N=27) | 18.5 | 81.5 |
| 総数 | 100(N=265) | 46.8 | 53.2 |

4-2. 結婚を意識したパートナー探し(問 11)

婚約者がいる者以外(現在特定の結婚相手がない者)に、結婚を意識してパートナーを探しているかどうかをたずねたところ、男性の 46.4%、女性の 45.5%が「はい」と回答した(表 4-2)。

これを、結婚に対する考え別(問 16)に回答状況を見ると、「できればすぐにでも結婚したい」と回答した者の 88.1%が結婚相手を探している。一方で、結婚したいと考えていても「いずれは結婚したい」と近日の結婚希望が無い場合は、半数以上が結婚を意識したパートナー探しを行っておらず、「はい」と回答した割合は、46.1%にとどまった。(表 4-3)このように、結婚の意志はあるが、結婚相手探しという具体的かつ重要な行動を伴わない未婚者の割合は高い。

表 4-2 男女別，結婚を意識したパートナー探し

| | 総数 | はい | いいえ |
|----|------------|------|------|
| 男性 | 100(N=261) | 46.4 | 53.6 |
| 女性 | 100(N=286) | 45.5 | 54.5 |

| | 総数 | はい | いいえ |
|----------------|------------|------|------|
| 結婚に対する考え(問16) | | | |
| できればすぐにでも結婚したい | 100(N=59) | 88.1 | 11.9 |
| いずれは結婚したい | 100(N=425) | 46.1 | 53.9 |
| このまま独身でいたい | 100(N=56) | 5.4 | 94.6 |

表 4-3 結婚に対する考え別，結婚を意識したパートナー探し

5. 結婚に関する考え方

5-1. 結婚に関する意思

結婚の意志をもっているかどうかの問いに対して、男女とも大半は「いずれは結婚したい」と回答している（男性 75.4%・女性 79.4%）。「できればすぐにでも結婚したい」（男性 14.3%・女性 11.6%）、「このまま独身でいたい」（男性 10.3%・女性 9.0%）がこれに続く。年齢別にみると、年齢の高いグループにおいて、「このまま独身でいたい」の回答が増す（表 5-1）。特に女性の 35 歳以上の独身希望意識が強い（38.7%）。

表 5-1 男女・年齢別、生涯の結婚意思 (%)

| | 総数 | できれば すぐにでも 結婚したい | いずれは 結婚したい | このまま 独身でいた い |
|-----------|------------|------------------------|---------------|--------------------|
| 男性 20～24歳 | 100(N=102) | 9.8 | 78.4 | 11.8 |
| 25～29歳 | 100(N=65) | 12.3 | 81.5 | 6.2 |
| 30～34歳 | 100(N=49) | 18.4 | 75.5 | 6.1 |
| 35歳以上 | 100(N=56) | 21.4 | 62.5 | 16.1 |
| 総数 | 100(N=272) | 14.3 | 75.4 | 10.3 |
| 女性 20～24歳 | 100(N=131) | 9.2 | 84.0 | 6.9 |
| 25～29歳 | 100(N=104) | 14.4 | 81.7 | 3.8 |
| 30～34歳 | 100(N=44) | 15.9 | 77.3 | 6.8 |
| 35歳以上 | 100(N=31) | 6.5 | 54.8 | 38.7 |
| 総数 | 100(N=310) | 11.6 | 79.4 | 9.0 |

「現在のあなたの結婚に対する意欲の強さ」について 1(弱い)から 10(強い)までのリッカード法にもとづく尺度項目を評定してもらった。その結果は、男女それぞれの平均値は 5.0, 5.2 とほぼ真中の値となった。また女性については、「現在の年齢」と「結婚に対する意欲の強さ」の間にわずかながらマイナスの相関が見られ(Pearson 相関係数-0.212)、年齢が高くなるほど意欲の低下傾向が存在した(表 5-2)。

表 5-2 男女・年齢別、現在の結婚に対する意欲の強さ：分布と平均値

| | 総数 | 現在の結婚に対する意欲の強さ(%) | | | | | | | | | | 平均値 |
|-----------|------------|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|-----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
| 男性 20～24歳 | 100(N=39) | 21.8 | 11.9 | 9.9 | 5.9 | 10.9 | 8.9 | 10.9 | 9.9 | 4.0 | 5.9 | 4.6 |
| 25～29歳 | 100(N=60) | 16.9 | 3.1 | 9.2 | 7.7 | 20.0 | 9.2 | 9.2 | 10.8 | 6.2 | 7.7 | 5.2 |
| 30～34歳 | 100(N=38) | 12.2 | 2.0 | 20.4 | 6.1 | 4.1 | 18.4 | 8.2 | 14.3 | 4.1 | 10.2 | 5.4 |
| 35歳以上 | 100(N=34) | 10.2 | 11.9 | 8.5 | 5.1 | 15.3 | 11.9 | 16.9 | 10.2 | 1.7 | 8.5 | 5.3 |
| 総数 | 100(N=201) | 16.4 | 8.0 | 11.3 | 6.2 | 12.8 | 11.3 | 11.3 | 10.9 | 4.0 | 7.7 | 5.0 |
| 女性 20～24歳 | 100(N=65) | 10.7 | 9.9 | 9.2 | 10.7 | 12.2 | 14.5 | 16.0 | 6.1 | 6.1 | 4.6 | 5.1 |
| 25～29歳 | 100(N=86) | 7.5 | 7.5 | 8.4 | 10.3 | 11.2 | 11.2 | 15.0 | 16.8 | 8.4 | 3.7 | 5.6 |
| 30～34歳 | 100(N=48) | 8.9 | 8.9 | 11.1 | 11.1 | 6.7 | 17.8 | 11.1 | 20.0 | 2.2 | 2.2 | 5.2 |
| 35歳以上 | 100(N=30) | 12.5 | 12.5 | 21.9 | 15.6 | 18.8 | 6.3 | 6.3 | 3.1 | 0.0 | 3.1 | 4.0 |
| 総数 | 100(N=273) | 9.5 | 9.2 | 10.5 | 11.1 | 11.7 | 13.0 | 14.0 | 11.4 | 5.7 | 3.8 | 5.2 |

5-2. 結婚希望年齢と適齢期

結婚の意思があると答えた人に対して(問 16)、希望する結婚年齢をたずねたところ、男

性の47.3%、女性の37.9%が「何歳でもよい」と考えている(問17)。結婚年齢にこだわらない割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる(表5-3)。

表5-1 男女・年齢別、結婚年齢の希望有無

| | | (%) | | |
|----|--------|------------|--------|-----------|
| | | 総数 | 何歳でもよい | ～歳くらい(実数) |
| 男性 | 20～24歳 | 100(N=90) | 41.1 | 27.3 |
| | 25～29歳 | 100(N=57) | 31.6 | 30.0 |
| | 30～34歳 | 100(N=21) | 54.3 | 32.7 |
| | 35歳以上 | 100(N=12) | 72.7 | 42.1 |
| | 総数 | 100(N=125) | 47.3 | 30.4 |
| 女性 | 20～24歳 | 100(N=891) | 26.4 | 26.3 |
| | 25～29歳 | 100(N=68) | 31.3 | 28.5 |
| | 30～34歳 | 100(N=15) | 63.4 | 33.1 |
| | 35歳以上 | 100(N=2) | 89.5 | 34.5 |
| | 総数 | 100(N=174) | 37.9 | 27.8 |

希望する結婚年齢がある人の具体的な希望結婚年齢をみると、男性の方が女性よりも、希望する結婚年齢が約2歳ほど高い(男性30.4歳、女性27.8歳)。

表5-4 男女・年齢別、希望する結婚年齢の平均値

| | | 平均値 (歳) | 度数 | 標準偏差 |
|-----|---------------|------------|-----|------|
| 総数 | 20～24歳 | 26.6 | 142 | 2.6 |
| | 25～29歳 | 29.1 | 107 | 2.1 |
| | 30～34歳 | 32.9 | 36 | 3.4 |
| | 35歳以上 | 41.0 | 14 | 7.9 |
| | 総数 | 28.9 | 299 | 4.5 |
| 男性 | 20～24歳 | 27.3 | 53 | 2.4 |
| | 25～29歳 | 30.0 | 39 | 2.3 |
| | 30～34歳 | 32.7 | 21 | 4.1 |
| | 35歳以上 | 42.1 | 12 | 7.8 |
| | 総数 | 30.4 | 125 | 5.5 |
| 女性 | 20～24歳 | 26.3 | 89 | 2.4 |
| | 25～29歳 | 28.5 | 68 | 2.3 |
| | 30～34歳 | 33.1 | 15 | 4.1 |
| | 35歳以上 | 34.5 | 2 | 7.8 |
| | 総数 | 27.8 | 174 | 5.5 |
| 問16 | できればすぐにも結婚したい | 29.0 | 57 | 6.1 |
| | いずれは結婚したい | 28.9 | 242 | 4.0 |

次に「男性の結婚適齢期」「女性の結婚適齢期」があると思うか、それぞれたずねたところ、男性の適齢期・女性の適齢期ともに、男性回答者のほうが「結婚適齢期があると思う」と答えた割合が高かった。「男性の結婚適齢期がある」と回答した男性回答者の割合は、39.6%、これに対して女性回答者の割合は36.4%であった。「女性の結婚適齢期がある」と回答した男性回答者の割合は、48.3%、女性回答者の割合は47.6%であった。同様に評価される側・評価する側の性別によって、結婚適齢期の平均年齢も異なる。

評価される側の性別からみると、男性ほうが女性よりも結婚適齢期の認知は低く、また考えられている適齢期の平均年齢も高い。評価する側の性別をみると、男性の方が女性よ

りも適齢期認知をする人の割合が高い。

表 5-5 男女・年齢別、結婚適齢期に関する意識

| | 適齢期があると思う人の割合(%) | | 適齢期の平均年齢(歳) | |
|-----------|------------------|--------------|-------------|------|
| | 男性の適齢期 | 女性の適齢期 | 男性 | 女性 |
| 男性 20～24歳 | 41.2 (N=102) | 43.3 (N=90) | 28.7 | 26.1 |
| 25～29歳 | 40.0 (N=65) | 52.5 (N=59) | 29.8 | 27.0 |
| 30～34歳 | 42.9 (N=49) | 55.6 (N=45) | 32.1 | 28.2 |
| 35歳以上 | 33.9 (N=59) | 45.5 (N=44) | 29.6 | 26.8 |
| 総数 | 39.6 (N=275) | 48.3 (N=238) | 29.8 | 26.9 |
| 女性 20～24歳 | 36.6 (N=123) | 47.7 (N=130) | 29.3 | 26.7 |
| 25～29歳 | 46.0 (N=100) | 59.0 (N=105) | 30.1 | 27.8 |
| 30～34歳 | 25.0 (N=44) | 37.8 (N=45) | 32.2 | 29.6 |
| 35歳以上 | 20.0 (N=30) | 24.2 (N=33) | 29.9 | 28.1 |
| 総数 | 36.4 (N=297) | 47.6 (N=313) | 29.9 | 27.6 |

5-3 収入からみた結婚条件

結婚の意思のある者に対して、「配偶者と自分の収入を合わせて、手取りで月収がどのくらいあれば結婚しても良いと思うか」たずねたところ、男性の場合、「30～40万円未満」が最も多く 39.7%、「20～30万円未満」の 18.6%がこれに続く。女性については男性よりも、高い年収を結婚条件として捉える傾向にあり、最も多かったのは、「40～50万円未満」(35.5%)であり、これに「40～50万円未満」(35.5%)が続く。このように、女性のほうが男性よりも、高い月収を必要と考える傾向がある。

表 5-6 男女・年齢別、結婚してもよいと思う手取り月収 (夫婦合算)

| | 総数 | (%) | | | | | | | |
|-----------|------------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|-------|
| | | 20万円未満 | 20～30万円未満 | 30～40万円未満 | 40～50万円未満 | 50～60万円未満 | 60～70万円未満 | 70万円以上 | わからない |
| 男性 20～24歳 | 100(N=89) | 1.1 | 21.3 | 36.0 | 15.7 | 10.1 | - | 1.1 | 14.6 |
| 25～29歳 | 100(N=60) | - | 13.3 | 53.3 | 13.3 | 11.7 | 1.7 | - | 6.7 |
| 30～34歳 | 100(N=46) | 2.8 | 23.9 | 39.1 | 10.9 | 8.7 | - | - | 17.4 |
| 35歳以上 | 100(N=47) | 6.4 | 14.9 | 29.8 | 21.3 | 8.5 | - | 2.1 | 17.0 |
| 総数 | 100(N=242) | 1.7 | 18.6 | 39.7 | 15.3 | 9.9 | 0.4 | 0.8 | 13.6 |
| 女性 20～24歳 | 100(N=121) | 0.8 | 6.6 | 27.3 | 37.2 | 12.4 | 0.8 | 1.7 | 13.2 |
| 25～29歳 | 100(N=100) | 2.0 | 12.0 | 30.0 | 29.0 | 11.0 | 5.0 | 1.0 | 10.0 |
| 30～34歳 | 100(N=41) | - | 17.1 | 22.0 | 31.7 | 14.6 | - | 2.4 | 12.2 |
| 35歳以上 | 100(N=19) | - | 5.3 | 15.8 | 36.8 | 21.1 | 5.3 | 5.3 | 10.5 |
| 総数 | 100(N=281) | 1.1 | 10.0 | 26.7 | 35.5 | 12.8 | 2.5 | 1.8 | 11.7 |

5-4. 父親の仕事と家庭のバランス

未婚者のイメージする理想の父親像はどのようなものであろうか。またそれは、実際に回答者が経験した自分の父親と比べてどのようなものであろうか。「実際に回答者が 15 歳のころの父親が仕事と家庭のどちらを優先していたか」と「仕事と家庭のバランスと言う点でどのような父親像が望ましいと思うか」について、1(家庭優先)から 10(仕事優先)までのリッカード法にもとづく尺度項目を評定してもらった。(表 5-7, 8)

「回答者が 15 歳のころの父親」についての平均値は、男性 6.2 女性 6.3 とやや仕事優先によっている。これと比べると「あなた望む父親像」の平均値は男性女性それぞれ 5.0, 5.1

であり仕事と家庭のバランスがよく、また「15歳のころの父親」よりも家庭優先へ向かう結果となった。

表 5-7 15歳の頃の父親の仕事と家庭のバランス：分布と平均値

| | 15歳のころのあなたの父親の仕事と家庭のバランス(%) | | | | | | | | | | | 平均値 |
|----|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|-----|
| | 総数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
| 男性 | 100(N=261) | 1.1 | 2.3 | 4.6 | 5.4 | 24.1 | 20.3 | 18.4 | 10.7 | 7.7 | 5.4 | 6.2 |
| 女性 | 100(N=307) | 1.6 | 2.3 | 4.2 | 6.2 | 23.1 | 20.2 | 11.1 | 13.7 | 10.4 | 7.2 | 6.3 |

表 5-8 回答者の望む父親の仕事と家庭のバランス：分布と平均値

| | あなたの望む父親の仕事と家庭のバランス(%) | | | | | | | | | | | 平均値 |
|----|------------------------|-----|-----|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 総数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | |
| 男性 | 100(N=273) | 2.9 | 1.8 | 12.5 | 12.5 | 36.3 | 20.5 | 8.4 | 2.6 | 1.5 | 1.1 | 5.0 |
| 女性 | 100(N=314) | 3.5 | 2.2 | 6.1 | 11.5 | 40.4 | 23.2 | 8.6 | 1.9 | 1.6 | 1.0 | 5.1 |

6. 子ども

本調査では、未婚者の将来の子どもの持ち方について、希望子ども数と、子どもを持ちたいという気持ちの度合い（子ども希望度）をたずねている。ここでは、調査時点で40歳未満で結婚経験がなく、将来の結婚意思はある未婚男女に限定して集計を行なった。

表 6-1 未婚男女の希望子ども数分布

| 希望子ども数 | 男性 | | 女性 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 標本数 | 割合 | 標本数 | 割合 |
| 0人 | (7) | 3.2% | (9) | 3.3% |
| 1人 | (24) | 10.9 | (28) | 10.3 |
| 2人 | (153) | 69.2 | (180) | 66.4 |
| 3人 | (31) | 14.0 | (53) | 19.6 |
| 4人以上 | (6) | 2.7 | (1) | 0.4 |
| 総計 | (221) | 100.0 | (271) | 100.0 |

表 6-2 未婚男女の希望子ども数平均値

| | 平均値 | 標本数 |
|----|-------|-------|
| 男性 | 2.04人 | (221) |
| 女性 | 2.03 | (271) |

注) 40歳未満で将来の結婚意思のある未婚男女について。

表 6-1 によると、希望子ども数は男女とも「2人」が最も多く、7割近くを占める。男性のほうが女性より2人に集中する傾向が見られる。「2人っ子規範」は依然として強いといえよう。子どもはいらないとする未婚者は男女とも少ないが、1人でよいとする人は男女とも1割いる。全体的に男女とも子ども数の志向は似通っており、表 6-2 に示されるように、平均希望子ども数は男女ともおよそ2人である。

表 6-3 未婚男女の子ども希望度分布

| 子ども希望度 | 男性 | | 女性 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 標本数 | 割合 | 標本数 | 割合 |
| ↑ 1 | (6) | 2.7% | (8) | 2.9% |
| 持 2 | (7) | 3.2 | (10) | 3.7 |
| よ 3 | (9) | 4.1 | (10) | 3.7 |
| た 4 | (5) | 2.3 | (7) | 2.6 |
| い 5 | (20) | 9.1 | (22) | 8.1 |
| なく 6 | (26) | 11.9 | (26) | 9.6 |
| て 7 | (20) | 9.1 | (30) | 11.0 |
| 持 8 | (37) | 16.9 | (47) | 17.3 |
| 必 9 | (14) | 6.4 | (28) | 10.3 |
| ず 10 | (75) | 34.2 | (84) | 30.9 |
| たい ↓ | | | | |
| 総計 | (219) | 100.0 | (272) | 100.0 |

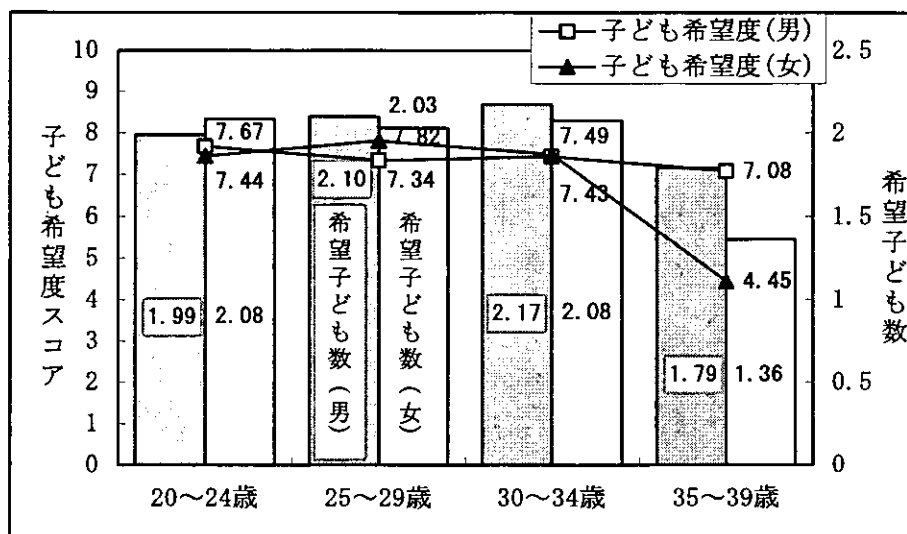
表 6-3 は、未婚男女の子ども希望度

分布である。男女とも、回答は「5」以上の数字に集まっており、約87%を占める。最も多いのはスコア「10」であった。多治見市の将来結婚したいと望む未婚男女の多くは、将来子どもを持ちたいとする意欲が高いといえる。また、男女でその意欲の強さは似通っている。

次に、希望子ども数と子ども希望度について、年齢別に平均値を集計した結果が図 6-1 である。これをみると、希望子ども数、子ども希望度ともに、30歳代前半までは平均値が横ばいであるが、30歳代後半になると、男女とも希望子ども数、子ども希望度ともに低下している。特に女性の落ち込みが大きく、希望子ども数も2を割って1.36人となり、子ども希望度も5を切って消極的な姿勢となる様子が示されている。これは、30歳代前半までに結婚しなかった人は、30歳代後半になると、結婚はともかくとして、子どもはあきらめつつある人の割合が高くなっていくという

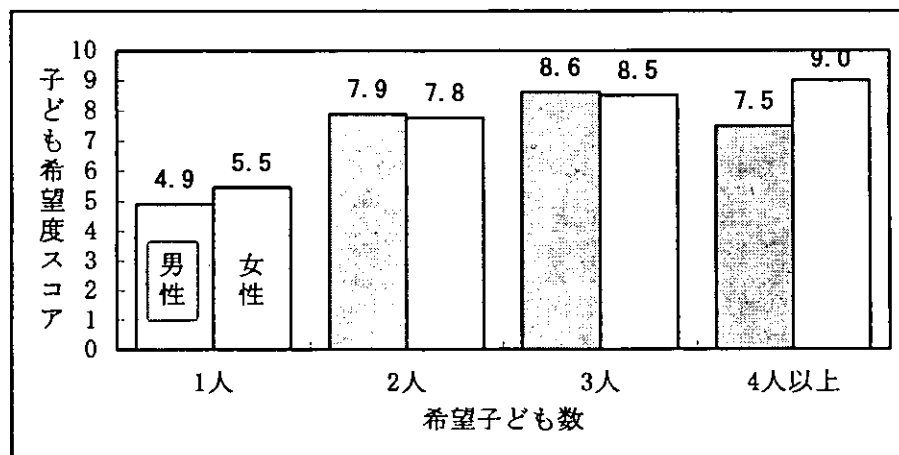
効果と、そもそも結婚も子どもも選択したくないと思っているため、30歳代後半まで未婚である人の割合が高くなっていくという効果の両方が数字に反映されていると考えられる。

図6-1 年齢別にみた、未婚男女の希望子ども数・子ども希望度平均値



また、図6-2は、希望子ども数別に、子ども希望度スコアの平均値を描いたものである。希望子ども数2人以上の未婚者では、男女とも、実際に子どもを持ちたい意欲は高いといえるが、希望子ども数1人とする未婚者は、子どもを持つ意欲が低いのがわかる。これらの未婚者は、結婚や生活の条件次第では子どもを持たないライフスタイルを選択する可能性もある人たちであるといえよう。

図6-2 希望子ども数別にみた、未婚男女の子ども希望度平均値



7. 未婚者の居住形態と意識

居住形態は、若者のライフスタイルや親子関係、結婚や家族に関する価値観などを規定する重要な要因とされている。『少子化に関する市民調査』では、同居者や離家（親の家を離れること）時の状況など、独身男女の居住形態に関する詳細なデータを得ている。これらのデータを元に、多治見市における未婚者の居住形態について明らかにし、彼らの居住形態が自立意識や結婚意欲、子どもをもつことに対する意思とどのように関わっているのかについて以下に報告する。ここでは未婚の20歳から40歳の男女を分析の対象とした。

4-1. 未婚者の居住形態

表 4-1. 性別未婚者の居住形態 (%)

| 親との同居別居 | 同居者の内訳 | 男性 | 女性 |
|---------|-------------------|--------|--------|
| 親と同居 | 両親 | 67.5 | 74.6 |
| | うち祖父母も同居 | (13.2) | (11.2) |
| | 片親 | 11.9 | 9.5 |
| | うち祖父母も同居 | (3.3) | (1.7) |
| | 小計 | 79.4 | 84.1 |
| | 全国平均 ^注 | 61.7 | 70.8 |
| 親と別居 | 一人暮らし | 16.0 | 12.5 |
| | 恋人・その他 | 4.5 | 3.4 |
| | うちその他(兄弟姉妹・友人等) | (2.9) | (2.4) |
| | 小計 | 20.6 | 15.9 |
| 合計 | | 100 | 100 |

N=243 N=295

注:平成12年国勢調査による20-39歳の未婚者の親子同居割合

多治見市に在住する未婚男女の居住形態を表 4-1 に示した。未婚者の居住形態は性別により若干異なる。親との同居率は男性が79.4%、女性が84.1%と女性の方が親と同居する率が5%ほど高い。全国平均と比べると、男女ともに親同居者の割合が15%程度高く、特に男性の親同居割合が高い傾向にある。

表 4-2. 居住形態別離家経験の有無

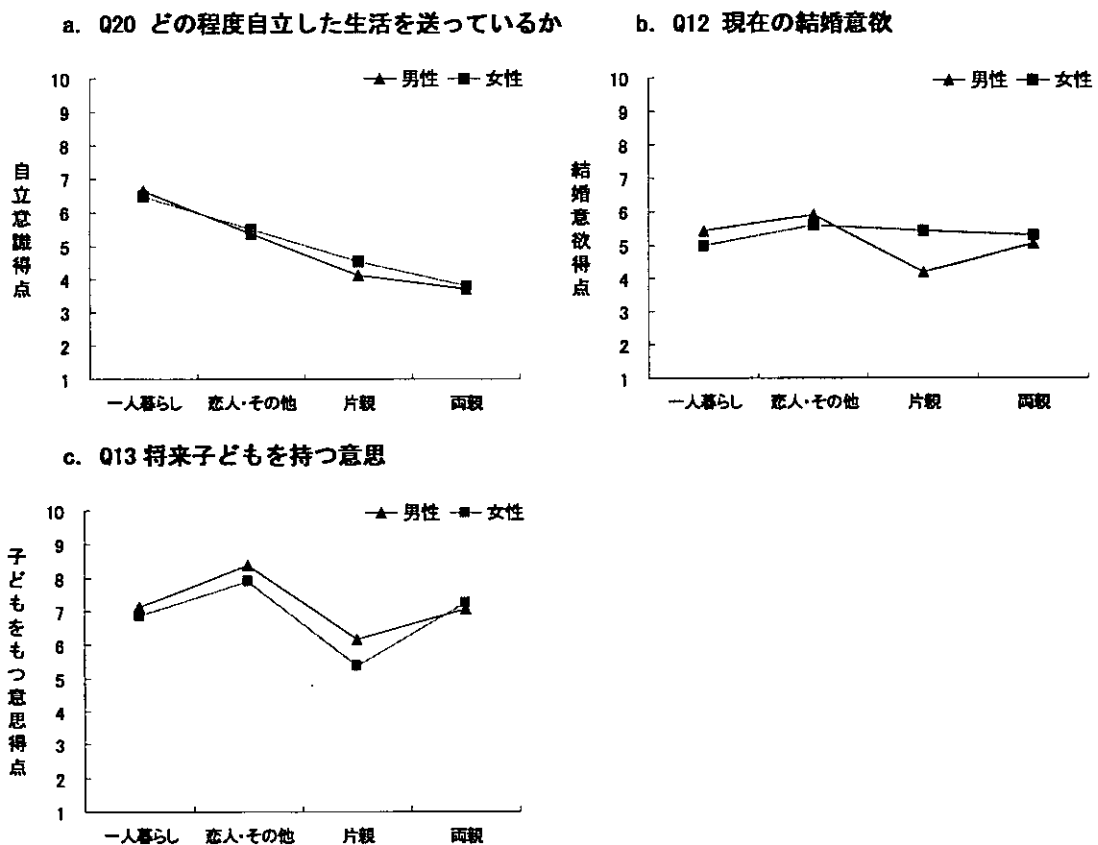
| | | 離家経験の有無 | | 合計 |
|----------|---------------|---------|------|-----|
| | | ある | ない | |
| 居住形態 | 一人暮らし(%) | 98.7 | 1.3 | 100 |
| | N | 74 | 1 | 75 |
| | 友人・その他等と同居(%) | 81.0 | 19.0 | 100 |
| | N | 17 | 4 | 21 |
| | 片親と同居(%) | 42.6 | 57.4 | 100 |
| | N | 23 | 31 | 54 |
| 両親と同居(%) | 30.6 | 69.4 | 100 | |
| N | 114 | 259 | 373 | |
| 合計(%) | 43.6 | 56.4 | 100 | |
| N | 228 | 295 | 523 | |

* N: サンプル数

表 4-2 によると、両親と同居する未婚者の約 7 割が一度も親の家を離れたことがない。したがって、多治見市において未婚者の親同居割合が高いのは、進学や就職時に離家をしなかった者が親の家に留まっており、こうした若者が流入未婚人口を上回るためといえる。一方、親と別居している者の多くは 1 人で暮らしている。家族以外との同居や兄弟姉妹のみから成る世帯はごく少数であることが明らかである。

4-2. 未婚者の居住形態と自立・結婚・子どもに関する意識

図 4-2. 未婚者の性別、居住形態別自立、結婚、子どもに関する意識の得点分布



未婚者の自立、結婚、子どもに関する意識の平均点を性別、居住形態別に図示したものが図 4-2 である。各項目は 10 段階尺度で回答を得ており、得点が高いほど自立しているという意識が高く、結婚意欲や子どもをもつ意思が強いことを表している。

自立意識は、居住形態によって最も大きく変動している (図 4-2 の a)。男女ともに親と別居している者のほうが、自らが自立していると考える傾向がある。未婚者の自立と居住形態が密接な繋がりをもっていることが示唆される。次に結婚意欲についてみると、片親家庭に居住している男性において低い傾向が見られるが、男女ともに居住形態に関わらず中程度の結婚意欲を保持している (図 4-2 の b)。子どもをもつ意思については、片親家庭に居住している男女の間で低い傾向がある (図 4-2 の c)。親世代の離婚は未婚者の家族形成にとって負の方向に作用する可能性がある。

8. 価値観

8-1. 生き方や考え方について

「生き方や考え方」については、独身者票の問 15 に a から k まで 11 項目にわたって質問している。これらは過去に実施された各種調査をもとに、わが国における生き方や考え方に関する価値観をあらわすと思われる質問で構成されている。回答者はそれぞれの質問に対し、「そう思う」から「そうは思わない」の 4 段階の回答を選択する。個々の質問項目についての分布は巻末の集計表を参照されたい。ここでは、これらの質問に対する回答を主成分分析により価値観尺度として凝縮し合成してみることにする。生き方や考え方については、さまざまな側面から考察しなくてはならないが、それぞれから得られる情報も多様になり解釈がむずかしくなる。そこで、主成分分析とはそれらの情報を凝縮させ、ある一定の方向性を見出そうとする因子分析の一手法である。

表 8-1 未婚者の生き方や考え方に関する質問についての主成分分析結果

| | 質問項目 | 主成分行列 | | バリマックス回転後 | |
|-------|----------------------------------|-------|--------|-----------|--------|
| | | 第1主成分 | 第2主成分 | 第1主成分 | 第2主成分 |
| 問15-a | 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ | 0.714 | 0.259 | 0.701 | 0.293 |
| 問15-d | 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきだ | 0.686 | -0.408 | 0.229 | 0.765 |
| 問15-e | 子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきだ | 0.607 | -0.566 | 0.064 | 0.827 |
| 問15-g | 男性も身の回りのことや家事をするべきだ | 0.388 | 0.492 | 0.619 | -0.099 |
| 問15-h | 一生独身でいるより、結婚したほうが良い | 0.522 | -0.446 | 0.082 | 0.682 |
| 問15-i | 夫に十分な収入がある場合、妻は仕事を持たないほうが良い | 0.647 | 0.412 | 0.755 | 0.134 |
| 問15-j | 妻にとって、自分の仕事をもつよりも夫の仕事の手助けをする方が大切 | 0.730 | 0.292 | 0.735 | 0.279 |

因子抽出法: 主成分分析

表 8-1 は、問 15 のうち b の「子どもが小さいうちは、母親は育児に専念するべきだ」と、c の「年をとった親は子どもが面倒をみるべきだ」と、f の「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」、そして k の「母親が働くと小学校へあがる前の子どもに良くない影響を与える」を除いた 7 項目を投入した主成分分析結果である。尚、この 4 問は今回の分析では独身票において他の項目とはことなる回答分布を示したため除外することとした。主成分行列の第 1 主成分はどの項目もプラスの比較的高い数値を示している。この特徴をもう少し明確にするために行った軸の回転後（バリマックス回転）の数値を見ると、第 1 主成分では d の「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきだ」と e の「子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきだ」、そして h の「一生独身でいるより、結婚したほうが良い」が低い数値を示し、また第 2 主成分ではそれらの項目は高い数値を示している。第 2 主成分は「伝統的結婚観」をあらわす尺度として、またそれらを除いた項目で高い値も示す第 1 主成分は家庭内の夫と妻の性別役割分担を表す項目を多く含んでいることから「伝統的性別役割」を示すものと考えて良いであろう。

表 8-2 は上記の「伝統的性役割」と「伝統的結婚観」についての男女別年齢別の平均値の比較である。全年齢で見ると男性が男女の役割分担について正の値であるのに対し、女性は負を示している。また伝統的結婚観も同様である。男性は男女の役割分担についても結婚観についても、女性よりも伝統的な考え方を持つ。

伝統的性役割を年齢別に見ると、男性は 20-24 歳のグループでのみ負、その次の 25-29 歳で正の低い値である。その後 30 歳代になると平均値が上昇する。夫と妻の家庭内の性別役割分業については、男性は年齢が上昇すると保守的な考え方が強くなる傾向が強い。

これに対して女性は、20 歳代の前半と後半では負の値を示している。伝統的な価値観に対して反対の考え方をもっていることになる。しかしながら、多治見市の独身女性の場合、30 歳代になるとわが国全体や他の自治体と若干異なる傾向を示す。一般には、30 歳代後半まで、女性は男女の性別役割分業について、非伝統的な価値観を次第に強めていくのであるが、多治見市の 30 歳代の女性はそれとは逆に伝統的な価値観をもつ傾向を示している。しかし 40 歳代では再び非伝統的な傾向に転じ、40 歳代後半までその傾向が強まる。

表 8-2 伝統的性別役割と伝統的結婚観の関する男女の差

| | 年齢 | 男性 | | | 女性 | | |
|--------|--------|--------|-------|------|--------|-------|------|
| | | 平均値 | 標準偏差 | 回答者数 | 平均値 | 標準偏差 | 回答者数 |
| 伝統的性役割 | 20-24歳 | -0.117 | 0.891 | 100 | -0.133 | 0.951 | 130 |
| | 25-29歳 | 0.050 | 1.013 | 65 | -0.233 | 0.943 | 107 |
| | 30-34歳 | 0.444 | 1.063 | 49 | 0.301 | 1.113 | 45 |
| | 35-39歳 | 0.333 | 1.021 | 26 | 0.257 | 1.010 | 14 |
| | 40-44歳 | 0.001 | 0.979 | 15 | -0.286 | 0.870 | 11 |
| | 45-50歳 | 0.555 | 1.173 | 16 | -0.541 | 0.801 | 5 |
| | 全年齢 | 0.114 | 1.008 | 271 | -0.099 | 0.984 | 312 |
| 伝統的結婚観 | 20-24歳 | 0.069 | 1.035 | 100 | -0.081 | 0.967 | 130 |
| | 25-29歳 | 0.174 | 1.141 | 65 | 0.050 | 0.958 | 107 |
| | 30-34歳 | 0.182 | 0.941 | 49 | -0.208 | 0.812 | 45 |
| | 35-39歳 | 0.030 | 0.986 | 26 | -0.779 | 1.063 | 14 |
| | 40-44歳 | 0.131 | 1.063 | 15 | -0.500 | 0.902 | 11 |
| | 45-50歳 | 0.209 | 0.959 | 16 | -0.481 | 1.227 | 5 |
| | 全年齢 | 0.123 | 1.030 | 271 | -0.107 | 0.962 | 312 |

伝統的結婚観については、男性の全ての年齢階級と女性の 20 歳代後半が正の値を示している。つまり、男女と一緒に暮らすなら結婚すべきであるし、婚外子は好ましくなく、一生ひとりであるより結婚したほうが良いという考えをもっていることとなる。しかしながら、女性は 20 歳代後半以外の年齢で非伝統的な結婚観をもっている。また 20 歳代後半の世代のその値は低いことを見ると、結婚観に対して男性は保守的な考え方をもちのに対し、女性は革新的、つまり古い結婚観にとらわれない考え方をもちことが明らかとなった。

2000 年の国勢調査によると、30 歳代前半の女性の 26.6%が男性の 42.9%が未婚である。また、30 歳代後半でも女性が 13.8%、男性の 25.7%が未婚である。わが国の少子化のもっとも大きな要因は、20 代後半から 30 代後半の男女が結婚をせず再生産活動に移行しないこ

とである。今回の調査からも明らかなように、男女の間には夫と妻の役割分担についての考え方や価値観、そして結婚観についての男女差が存在している。男性は伝統的な妻として母としての役割を担ってくれる女性を求め、年齢が上昇すればするほどその傾向が強くなる。しかしながら女性は伝統的な役割分担ではなく、夫との新しい時代の関係を求めているのである。結婚についても男性は、保守的な考え方を示すのに対し、女性は新しい形の結婚を考える。このような相違が存在し、さらに男女間の乖離がすすめば、晩婚化や非婚化を食い止めることは不可能となろう。

9. 多治見市（独身者）

独身者が多治見市をどのように評価しているかについて、多治見市の居住満足度に対する回答から探る。以下では、回答を居住期間別に整理していく。

表 9-1 は男性（回答総数 308）について、居住期間別にみた多治見市に対する満足度を示したものである。

表 9-1 多治見市：居住期間別満足度—男性—

| | | 満足度→ | | | | | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10計 | |
| 居住期間↓ | 1年未満 | 0.0% | 8.3% | 8.3% | 8.3% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 25.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 1～9年 | 7.9% | 13.2% | 7.9% | 5.3% | 13.2% | 21.1% | 21.1% | 10.5% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 10～19年 | 2.8% | 1.4% | 15.5% | 18.3% | 9.9% | 12.7% | 16.9% | 11.3% | 8.5% | 2.8% | 100.0% |
| | 20～29年 | 3.3% | 4.1% | 4.9% | 8.2% | 25.4% | 17.2% | 14.8% | 12.3% | 5.7% | 4.1% | 100.0% |
| | 30～39年 | 4.3% | 6.5% | 10.9% | 2.2% | 21.7% | 17.4% | 13.0% | 21.7% | 0.0% | 2.2% | 100.0% |
| | 40年以上 | 5.3% | 0.0% | 10.5% | 26.3% | 26.3% | 10.5% | 5.3% | 10.5% | 5.3% | 0.0% | 100.0% |
| 合計 | | 3.9% | 4.9% | 9.1% | 10.4% | 19.5% | 16.2% | 15.3% | 13.6% | 4.5% | 2.6% | 100.0% |

表 9-2 多治見市：居住期間別満足度—女性—

| | | 満足度→ | | | | | | | | | | |
|-------|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10計 | |
| 居住期間↓ | 1年未満 | 0.0% | 0.0% | 8.3% | 8.3% | 33.3% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| | 1～9年 | 5.0% | 5.0% | 7.5% | 17.5% | 22.5% | 10.0% | 12.5% | 10.0% | 7.5% | 2.5% | 100.0% |
| | 10～19年 | 3.1% | 4.1% | 19.6% | 8.2% | 17.5% | 16.5% | 14.4% | 12.4% | 4.1% | 0.0% | 100.0% |
| | 20～29年 | 3.4% | 0.7% | 7.4% | 14.1% | 17.4% | 19.5% | 14.8% | 10.7% | 6.7% | 5.4% | 100.0% |
| | 30～39年 | 2.2% | 4.3% | 4.3% | 4.3% | 13.0% | 26.1% | 17.4% | 17.4% | 4.3% | 6.5% | 100.0% |
| | 40年以上 | 6.7% | 0.0% | 13.3% | 13.3% | 26.7% | 6.7% | 20.0% | 0.0% | 6.7% | 6.7% | 100.0% |
| 合計 | | 3.3% | 2.5% | 10.6% | 11.4% | 18.4% | 17.8% | 15.0% | 11.7% | 5.6% | 3.6% | 100.0% |

最も頻度の多い満足度は5、次いで6、7であり、居住年数が比較的長い回答者ほど相対的に高い満足度を示しているといえる。表 10-2 は同様に女性（総回答数 359）について、同様の結果を示したものであり、頻度の最も多かった回答は5、次いで6であった。

図 9-1、9-2 は居住年数別にみた満足度の平均値を算出したものである。男性についてみると、居住年数が20～29年の者の満足度が最も高く平均で5.84であり、最も低いのは1～9年の5.03であった。なお、男性全体の平均は5.60だった。女性についてみると、居住年数が短い層と長い層の満足度が高い傾向がみとれる。最も満足度の高いのは30～39年の者の6.28、次いで20～29年の5.91、1年未満の5.75であった。平均満足度は5.70であり、男性よりもやや高い値となっている。

表 9-3、図 9-3 は男性と女性を合計した全回答者（総回答数 667）の居住期間別満足度を示したものである。両者を合計すると、居住年数に関わらずほぼ一定の満足度を表明して

